

一般質問発言通告書

発言順位 1番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年 6月 7日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 7番 沈 久美

| | |
|-------|---|
| 質問事項1 | 農業と食における女性活躍の現状と展望 |
| 具体的内容 | 農業をとりまく状況（人口減少高齢化、国内市場規模の減少、食生活の変化、長期的な自給率の低下、輸入依存危機等）から、食料安全保障政策の推進が急務である。昨年「みどりの食料システム戦略」が打ち出され、生産者・消費者ともに大転換を迫られている。一方、第5次男女共同参画基本計画では、農業においても男女共同参画推進の必要性が謳われ、女性が地域の方針策定に参画し、女性の声の反映が今後の発展に必要とされている。 まず、食と農は一体であるという観点の再認識が重要と考える。女性に限らず全消費者が農業との親和性を高め、積極的に関わろうとする支え手（消費者）意識が、担い手（農業者）と地域農業全体の将来展望を明るく広げていく。そのうえで、女性が参画するほどに、より発展が望める分野・役割はどういうところにあるかを明らかにし、具体的な取組につなげていきたい。そのために三島の食農における女性活躍の現状を伺う。 |
| | 1 農業委員、農業協同組合理事の女性割合、および農業委員の選出過程における慣例と見解について |
| | 2 広く農業分野における女性の活躍事例と現状認識について |
| | 3 農業に意識と関心を寄せる女性を増やすため、具体的にどのような取組があるか。 |
| | 4 みどりの食料システム戦略を推進する中、オーガニック食を啓発していく必要がある。家族の食を担う農産物の中心消費者（主に女性）に対しどんな働きかけをしていくのか。 |
| | 5 これまでの農商工連携や地産地消の取組を踏まえ、農業と市民がともに Well-being となる今後の農と食における方向性に関する見解（主に女性活躍の実例とともに）について |
| 質問事項2 | 三島市食育基本計画における学校給食の「地産地消」を検証する |
| 具体的内容 | 子ども若者の食生活について、脂質過多、糖分過多、食物繊維不足、ミネラル不足などによる栄養バランスの崩壊とともに、家庭における孤食・個食・欠食に象徴される食習慣の乱れが問題視されている。このようなよくない食の関与により、生活習慣病の低年齢化やアレルギー性疾患が若者層を中心に急増している。国の食育政策全体としては、子ども若者に対する課題が多く残されているとの指摘がある。一方、三島の学校給食は、三島市食育基本計画に基づき、農業、環境、伝統文化といった地域理解を深めることなどを目的に、早くから「地産地消」が図られている。完全米飯による完全給食という理想形が実現して11年、学校給食運営システムは、地産地消のさらなる向上に適した形になっているだろうか。 いわゆる「クワトロ・ショック」下にあり、我が国の食料事情の好転は未だ期待しにくい状況にあり、価格の高騰はなお続き、国による経費の補填がいつまでも続くとは考えにくい。 食育にも食料安全保障の観点が必要と考える。地域農業とともに学校給食の持続性を維持するため、市としても学校としても、地域特性を生かした新たな一歩が踏み出せないだろうか。 以下、学校給食の運営システムに関する現状と見解、および食育基本計画の内容を伺う。 |
| | 1 学校給食の運営概要（外部委託の内訳・調理員の正規職員配置状況・食材の流通経路・三島市学校給食農業生産者研究会の設立経緯と現状）について |
| | 2 献立など学校給食について保護者の声を吸い上げる取組状況について |
| | 3 学校給食における「地産地消」の捉え方、目標値への達成状況、および今後の取組について |
| | 4 第3次三島市食育基本計画における「学校給食絆づくり交流事業」の内容と実施状況について |
| | 5 三島市食育基本計画のポイント、地域の食料安全保障を踏まえた学校給食の展望について |